

子どもの救急

こんなときどうする？

3

「せきぜーぜー」



子どもの発熱、けいれん、せき、嘔吐、下痢などの場合の対処法やお医者さんへのかかり方、救急車の利用などについて、公立豊岡病院総合診療科の山田博之先生に、5回にわたって連載していただいています。
今回は「せき」について、掲載します。

《救急受診すべきせき、ぜーぜー》

ぜーぜー

「季節の変わり目になるとせきが出る」、「ぜーぜーと言ってしまう」、「せきで夜眠れない」など、せきを訴えて来院する子どもは多く、子どもの症状としては、発熱に続いて多く見られます。



大半は、

鼻やのどのウイルス感染（一般的に上気道炎と言われます）によるもので自然に治ることが多いのですが、やはり注意すべき危険なせきもあります。

そのせきの見分け方と対処法を覚えてみましょう。

○急にせき込み、ぜーぜー言い出した（呼吸困難）。
○直前に小さなおもちゃで遊んでいたたり、何かを食べたりして、気道に物が詰まった可能性がある。

○せきが続き、会話がまと

もにできず、唇や爪が紫色になっている。

○せきやぜーぜーで横になれない、眠れない。

○息を吸うときに首の根元やろっ骨の間が、へこへこへこむ。

○犬の吠えるような声でせきこむ。



込む（オットセイの鳴き声のようなせき）。

○声がかすれてほとんど聞き取れない。

○ヒューヒューと音がする。

○せきが止まらない。

○以上のようなせき、ぜーぜーに当てはまる場合は、救急外来を受診する必要があります。

あるでしょう。

重篤な呼吸困難に陥る可能性があります。

つまり、単なる感染症によるせきではなく、もがき苦しんでいるせきなのです。

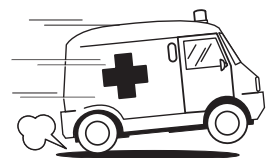
なかなか理解は難しいでしょうが、特に、顔面そう白、唇が紫色、窒息の可能性、息が浅くて荒い、反応が鈍いなど、心臓、肺、脳など人間の中枢に影響が及んだ症状の場合は、救急車を要請してください。

一方、次のようなせきの場合は、比較的落ち着いており、緊急性は低いと思われるので、翌日まで様子を見て良いでしょう。

○鼻汁、発熱などもあるが、割と元気は良い。

○食事も普通に取れ、水分も取れている。

○せきは軽く、よく眠っている。



重要なのは、いつもと様子が違うことを見抜くことです。元気は良い、食欲はある、ぐっすり眠れているときは、緊急受診する必要がない場合がほとんどです。

次に示す対処法で、まずは様子を見てみましょう。ただし、気管支喘息で通院中、治療中であれば、発作出現時の対応は、事前に主治医に確認し、その指示に従いましょう。

《せきの対処法》

①室内に洗濯物を干したり、湿ったタオルをかけるなど

②少量ずつ水分を摂取させる。

③背中を叩いたり、さすったりする。

このようにすることで痰を出しやすくし、呼吸も楽になります。

また、お父さん、お母さんがそばにいて背中をさすってあげること、子どもはかなりの安心感を得るものです。ぜひ、実践してください。

その他、救急受診する場合でも、本人の楽な姿勢にして、背中をさすって安心感を与えましょう。

※分からないこと、聞きたいことがあればメールしてください。

メールアドレス
shouni99@yahoo.co.jp



《問合せ》公立豊岡病院総合診療科 ☎22-6111

より良い環境を次の世代へ

「歴史・文化的資源の保全」

環境基本計画 ⑦

環境基本計画に掲げた目標の実現に向けた取組みを紹介しています。今回は、「それぞれの地域に受け継がれている伝統的な行事や文化・まち並み、自然の景観などの保全」について説明します。

《問合せ》コウノトリ共生課環境政策係 ☎21-9017

地域の自然や歴史・文化は、昔から地域の人々によって大切にされ、受け継がれてきました。



市内にも、歴史ある祭りや伝統行事がたくさん残っています。

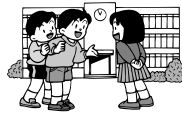
また、地形や風土に適合した住まいがあり、歴史・文化的なまち並みが維持されています。

これらの歴史・文化や景観は、人々の自慢・誇りとなっています。

しかし、近年、高齢化、少子化が進み、地域のコミュニティ活動がしにくくなりつつあります。このままでは、伝統的行事などの継承が難しくなってくることも予想されます。

そこで、学校教育や生涯学習の場を利用して、伝統技術

に触れたり、体験したりする機会を設けたり、条例を制定し、積極的にまち並みを保存する取組みが始まっています。



みんなが「つながる」ことで地域の良さを見直し、「自信・誇り」を持って地域づくりに取り組みましょう。

○身近な自然や歴史・文化について家庭でも話をします。

○地域で子どもたちが身近な自然や歴史・文化に触れる体験活動を進めます。

○地域に古くから伝わる伝統行事や文化を大切にし、継承します。

○身近な自然や伝統的な建物などを大切にし、景観の保全に努めます。

環境あれこれ

18

パソコン・携帯電話の回収

環境に関する問題について、市の取組みなどをシリーズでお知らせします。

《問合せ》生活環境課生活環境係 ☎23-5304

●金銀財宝・宝の山

パソコンや携帯電話の普及率は、世界的にも驚異的な伸びを見せていますが、これに伴い、廃棄されるパソコンや携帯電話の数はおびただしいものがあります。



製品には、回路やセンサー、電極などに、希少金属（レアメタル）といわれる金・銀・銅・チタン・パラジウム・マンガン・コバルトなどが使われています。

これら希少金属は、世界的にも産出量が少ないため、電化製品などの普及に伴う需要が増大し、価格も急激に高騰しています。

このため、パソコンや携帯電話、電化製品に使われている



再使用したり、資源として有効活用されています。

しかし、残念なことに、まだまだごみとして捨てられるパソコンや家電製品が後を絶ちません。まして、不法投棄などのもつてのほかです。

私たちの環境を守るため、限られた資源を有効に利用するためにも、これら貴重な資源は決められたルールに従ってきちんと回収してもらうようにしましょう。

●世界的争奪戦

希少金属の確保ができない場合には、電化製品などの生産に大きな影響を与えるため、今、世界中であらゆる手段を駆使しての争奪戦が展開されています。

携帯電話を1万台回収することにより、200から300グラムの金が採取できるといわれています。

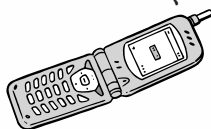
要らなくなった携帯電話は「ごみ」ではなくて「宝の山」なのです。これが「都市鉱山」といわれるゆえんです。

●リサイクル(再生利用)とリユース(再使用)

事業者が引き取ったパソコンや家電製品は、必要部品を

●携帯電話は販売店へ

携帯電話については、販売店とメーカーが協力し、どこのメーカーの製品であっても回収するシステムを作っています。



しかし、メールやダウンロードした音楽などをそのまま保存して残しておきたいという利用が増えたため、その回収率が低下しています。

このため、各事業者とも回収の努力をしています。私たち利用者も、使わなくなった携帯電話は、再利用する資源として、販売店などの回収に協力するよう努めましょう。